

飯能戦争の跡を訪ねるコース

②天覧山（愛宕山・羅漢山） 振武軍が物見を置いた場所

東京都西多摩郡日の出町に残されている記録には、旧幕府方は、羅漢山（愛宕山）の頂上にある愛宕宮の脇に丸太で櫓を建て、幕を張ってしばしば烽火をあげたことが記されています。のち天覧山と称されるようになったこの山の頂上からは、飯能の町はもちろん、遠く明治新政府方が駐屯した扇町屋をのぞむことができます。



④智観寺 筑前（福岡）藩、筑後（久留米藩）が押し寄せる

智観寺には、筑前（福岡）、筑後（久留米）両藩兵が現れました。午前5時頃とも8時頃ともいわれています。攻め手側は南側の門より大炮2発を打ちかけ、寺に侵入したものの旧幕府側の兵は全く見えなかったとのこと。久留米藩の記録によると、兵が隠れていて反撃されるのを恐れ、寺を焼き払ったとのこと。火は本堂から庫裏・中雀門・回廊・土蔵・長屋にまでまわり、御納物や什物などが焼失しました。



①能仁寺 旧幕府方の本営が置かれた激戦地

能仁寺は、久留里藩黒田家の菩提寺で飯能の町の中で最も大きな寺院でした。そのため振武軍の本営が置かれ、激戦地となりました。佐土原・大村両藩の先鋒と、後援の備前藩兵は、ときをあげ能仁寺に向け大炮を雨、雷電の如く激しく打ち込んで能仁寺に侵入し、寺に火を放ったとの記録が残っています。この兵火により、本堂や黒田家の御霊屋など多くの建物が焼失しました。開山堂前には、昭和12年に建てられた振武軍の碑が建っています。



⑩観音寺 山中昇の宿所を備前岡山藩が襲撃

観音寺は、縄市が行われた飯能の町に最も近いところにある寺で、「前軍」を指揮していた山中昇の宿所となっていました。人数は60人とも150人とも言われています。備前藩の記録によると、備前藩兵は観音寺を攻撃し旧幕府方を散り散りにして、甲冑1領を分捕り、山中昇の宿所と見えたので放火させたと伝えられます。その結果、本堂・庫裏が焼失したものの、観音堂・表門・裏門・物置は焼失を免れました。



③⑨町中の戦場 聖天森、高札場などが戦場に

現在の飯能第一小学校の敷地北側には、聖天宮という神社があり、今も残る巨木がその名残を伝えています。ここでも戦闘が行われ、遺体が見つかったことが坂戸市に残る風説を書き留めたものに記されています。同書は、そのほか「飯能出口」「原村（飯能村の誤りか）諏訪沢」「前田」などにも戦死者の遺体があったことを伝えています。



⑤心応寺・玉宝寺 旧幕府方が逃亡し、焼失を免れる

心応寺、玉宝寺にも旧幕府方の兵が駐屯していましたが、新政府軍が討ち入って来たのを見た旧幕府方の兵は、狼狽して逃げ出したため、この両寺では戦闘が行われませんでした。



⑥広渡寺 本堂、庫裏などが焼失

広渡寺には、野村庄三郎を頭とする40人ほどが屯集していましたが、双柳方面から侵入してきた新政府方を迎え討つために寺を出て行ったことがわかっています。その後の戦闘の状況は不明ですが、本堂や庫裏・鐘撞堂などとともに什物類も焼失してしまいました。

飯能戦争のあらまし

「飯能戦争」とは、慶応4(1868)年5月23日未明、高麗郡笹井村(現在の狭山市)で始まり、その日のおおよそ午前中に飯能の「町」で終結した、振武軍を中心とする旧江戸幕府方と大村藩・佐土原藩・筑前(福岡)藩・筑後(久留米)藩・備前(岡山)藩などからなる明治新政府方との間でなされた一連の戦闘行為をいいます。日本の歴史からみると、明治維新期の内乱である「戊辰戦争」の一地域戦ということになります。



四斤山砲の榴弾(奥)と散弾(手前右)及びミニエー銃弾

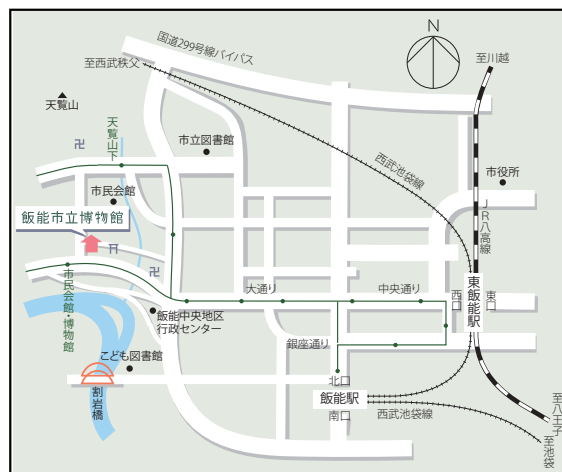
渋沢栄一と飯能戦争

振武軍頭取の渋沢成一郎は、渋沢篤太夫(後の渋沢栄一)とともに、元治元(1864)年に一橋慶喜の家臣となりました。飯能戦争が起きたとき、栄一は徳川昭武(一橋慶喜の弟)の随行でフランスに留学しており、飯能戦争には渡欧前に養子としていた平九郎が参加していました。渋沢平九郎は、5月24日に黒山で自刃しますが、栄一は、明治6年に平九郎の遺骸を収容し、その顕彰に努めました。小規模な戦闘であった飯能戦争が知られているかげには、渋沢栄一の存在があったのです。

展示をご覧になったあとは、

このマップをお供にぜひ市内へお出かけください。

新たな出会いや発見があなたを待っているはずです。



- ▲ **アクセス**
- 西武池袋線飯能駅から徒歩約15分
 - JR八高線東飯能駅から徒歩約25分
 - 飯能駅および東飯能駅より国際興業バス名栗方面「市民会館・博物館」バス停下車徒歩3分、または西武飯能日高方面「天覧山下」バス停下車徒歩2分

- ▲ **利用時間** 午前9時から午後5時まで

- ▲ **休館日**
- 月曜日(祝祭日を除く)
 - 祝日の翌日(祝祭日の場合は開館)
 - 年末年始(12/28~1/4)

- ▲ **入館料** 無料

▲▲▲ ホームページ・Facebook 更新中 ▲▲▲

博物館・学芸員の日常や仕事の裏側などをお伝えしています。



Facebook



ホームページ



twitter



飯能市立博物館
Hanno Municipal Museum

〒357-0063

埼玉県飯能市大字飯能258-1

TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431

E-mail: museum@city.hanno.lg.jp

飯能市立博物館

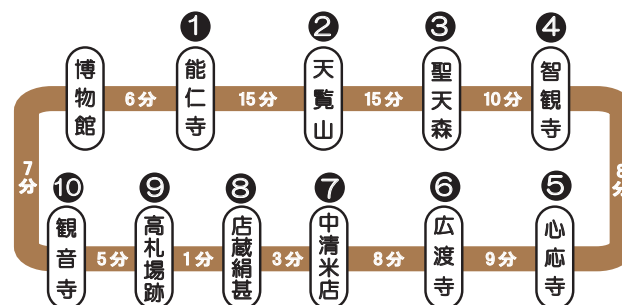
(愛称) **きつとす**

お出かけガイドマップ①



飯能戦争の跡を訪ねるコース

[約10km]



かくれた名所

■諏訪沢

夏はひんやり、江戸時代の風景が残る場所

諏訪八幡神社と観音寺の間には諏訪沢と呼ばれる小川が流れています。博物館と市民会館の間の道を進み、諏訪沢へ下りていく道はかなりの落差があります。かつて、飯能から名栗へ向かう道の至るところに入間川に注ぐ小さな河川があり、高い橋をかけることのできなかった明治中期頃までは、このようなアップダウンが至るところにあり、荷車による運送が中心であった時代の大変さを今に伝えています。こうした場所は、夏は涼しく坂を登り切った旅人たちの一休みの場所にもなっていました。

■住田屋さん、中清米店さんの袖蔵

飯能戦争でも燃えなかった建物たち

広渡寺から観音寺に向かう途中、かつて飯能の町で市が開かれていた大通りに入ります。その最も東側「広小路」の交差点の脇にお米屋さんがあります。それが「中清」さんで、向かって右側の袖蔵は、飯能戦争の2年前の慶応2年には存在していたことがわかっています。

さらに西へ100mほど進むと、うだつのあがる商家「店蔵絹甚」(飯能市指定文化財)があります。そこで一休みしたら、向かいにあるマンションの左隣の建物に注目。これは「つけ麺」で有名だった住田屋さんの建物ですが、その右半分は文久年



中清米店さんの袖蔵

間の建設といわれています。中清さんの袖蔵とこの建物は、飯能戦争にも焼失しなかった貴重なものなのです。

■心応寺の弁天池

扇状地ならではの景観

心応寺の脇には、湧水を水源とした池があり、弁財天が祀られています。ここから智観寺へ向かうには段丘を登っていくことになり、その崖下から湧き水が出ているのです。